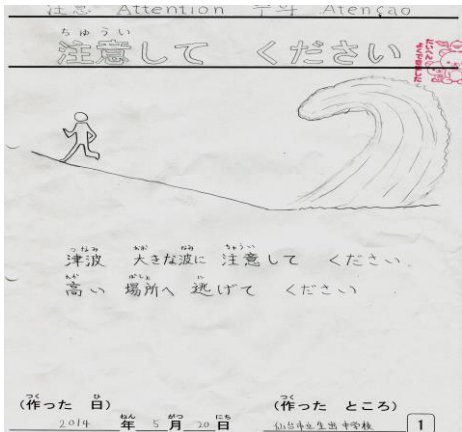


| 学校名 [生出中学校] 氏名 [三上 直子] 授業者 [浅野 佑一] [中] 学校 [2] 年版 単元名 [情報に振り回されないために] P36～37 教科・領域名 [国語] [時間 50 分] | |
|--|--|
| 主な学習活動 (実際に行った活動) | 指導の実際 |
| <p>(二年生 国語の教科書 P40～47の学習が一通り終わった後に行った。)</p> <p>1 震災当時、情報をどこから得ていたか。(発問) ・新聞 ・テレビ ・ラジオ ・インターネット等</p> <p>2 災害時、どう行動すれば良いか、災害時における生活レベルの向上のために情報が必要不可欠であることを知る。 ・ 副読本 (P36～37) を音読する。(学習活動)</p> <p>3 外国の人も分かる「やさしい日本語」を使ったポスターを書いてみよう。(中心発問・学習活動) ・ 見出しは複数の言語で表す。 ・ 内容は一枚の掲示物につき一つの情報とする。 ・ 表記には漢字を用いる。(漢字圏の人は意味を推測することができ、避難場所や目印となる建物は漢字で表記されている場合が多いから。) ・ 言葉の区切りごとに一字分空けて意味のまとまりを分かりやすくする。 ・ 内容に関連する絵や地図を付けて情報を補う。 上記の点に注意してポスターを書く。</p> <p>4 書いたポスターを黒板に貼り、意見交流をする。</p> | <p>1 被害を大きく受けた地域ではないため、情報に困るという経験をした生徒が少ない。そのため、教師から避難所の実態や避難所での情報の提供方法を説明した。</p> <p>3 国語の教科書では阪神淡路大震災の事例を踏まえている。現在の日本には外国からの人々も多くいる実態を話した。日本人を含め、外国の人たちにも正確に情報を伝えるための一つの方法として「やさしい日本語」を用いたポスターを作らせた。 ・ 佐藤和之教授(弘前大学)の研究室で運営しているホームページにあった「やさしい日本語」を使用したポスターの例を数枚提示した。</p> <p>4 「もっとわかりやすく誤解のない表現がないか」について仲間が書いた作品を読み合いながら検討していた。 (生徒感想) ・ 重要なところを絞って書くことを学んだ。 ・ 難しい言葉ではなく、いかに言い換えるかが大切であることを学んだ。 ・ やさしい日本語は外国の人だけではなく、高齢者や子供にも分かりやすいということを学んだ。</p> |
|  <p>5 振り返りシートに振り返りを記入する。</p> | |